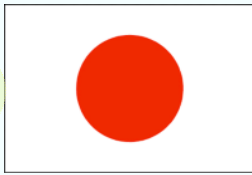


アミーゴ会だより

2010年1月
(メルマガを改題)
No. 1: 2010-I



発行人：上原尚剛
編集長：渡辺道雄
編集人：河嶋正之
事務局：関口重雄

新年のご挨拶

メキシコ-日本アミーゴ会
会長 上原尚剛

皆さん明けましておめでとうございます。ご一家お揃いで良いお正月をお迎えの事とお慶び申し上げます。本年もどうぞ皆様お元気で過ごされますよう祈念致します。

さて昨年は1609年、御宿の浜にフィリピン総督の任を終えて帰国途中のロドリゴ・デ・ビベロー行を乗せたメキシコのガレオン船サン・フランシスコ号が漂着して400年になるところから、日墨友好400年記念として両国交流に関する各種セミナーが開かれるなど様々な事業が催されました。

当アミーゴ会としましても先ず記念行事の一環として、櫻田幹事のご努力で村上直次郎博士が翻訳された『ドン・ロドリゴ日本見聞録』並びにロドリゴ帰国後に答礼で日本に来たセバステイアン・ビスカイノが書いた『金銀島探検報告』をCD化し、同時に作成した「記念陶板(文鎮)」と共に希望者に頒布する一方、森幹事が中心となって有識者による日墨交流記念講演会を4回開催し多くの方に参加頂き好評でした。

9月26日には御宿に於いて皇太子殿下ご臨席の下400年記念式典が行われ、当会を代表して鴻巣幹事に出席頂きました。また11月21日には、メキシコ政府から友好の印として贈られ御宿のメキシコ記念公園に設置された、メキシコの著名な彫刻家ラファエル・ゲレロ氏作のブロンズ像「抱擁-ABRAZO」の台座に取り付けたプレートの除幕式がメキシコ大使出席の下行われましたが、このプレートにはこれまでメキシコとの友好促進に寄与した方々の名前が刻まれており、アミーゴ会を設立された利光前会長と仲村前事務局長のお二人の名前も刻まれました。

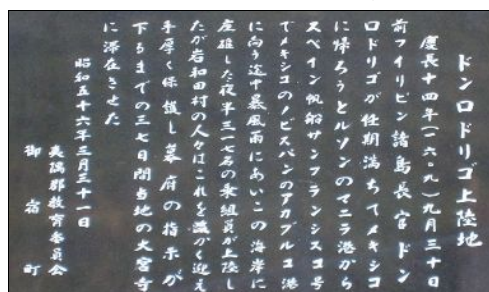
一方当会自体の催しとしては、11月17日に銀座のメキシコ料理店 ZEST CANTINA を借り切って会員総会とメキシコ大使ご夫妻をお招きしての懇親会を開催しましたところ、100名の方に参加頂き大盛会でした。また12月21日には川崎国際生田緑地ゴルフ場で21名が参加しての懇親ゴルフ会を開催しました。

以上昨年主な会の活動につきご報告しましたが、昨年は JAMEX 側の事情により事務局の移転を余儀なくされた中で、南郷幹事のご好意により同氏の鎌倉の事務所を使わせて頂ける事になり、会の運営が支障なく行えました事に改めて感謝致したいと思います。

昨年末には御宿の有志の方から「御宿アミーゴ会」を組織して当会と連携して活動したいとの要望も寄せられており前向きに具体案を検討していますが、本年も昨年同様に歴史文化講演会を初め、機会を捉えて会員間の親睦とメキシコとの友好に繋がる催しを企画して皆様のご要望にお応えして参る所存ですので、何卒宜しくご支援方お願い申し上げます。



↑メキシコ公園のメキシコ記念塔
(日西墨三国交通発祥記念之碑)



↑夷隅郡岩和田浦(千葉県御宿町)の記念碑と海岸→



目次

- 1. 新年のご挨拶：上原会長
- 2. 新年のご挨拶：メキシコ大使
- 3. 総会・懇親会・懇親ゴルフ大会の報告
- 4. 御宿と日本メキシコ交流 400 周年の記
- 5. 日墨交流 400 周年記念式典新聞記事集
- 6. メキシコ歴史文化講演会の報告
- 7. 復刻版(PDF・CD)刊行の案内
 - ・ ドンロドリゴの日本見聞録
 - ・ ビスカイノ金銀島探検報告
- 8. メキシコ経済&政治トピックス



EMBAJADA DE MÉXICO

Mensaje de Año Nuevo del Embajador Miguel Ruiz Cabañas para la Asociación "Amigo-kai"

Enero de 2010

La amistad ha sido el tema central de la celebración que México y Japón están llevando a cabo desde 2009 y que se extiende a este año que empieza. Estamos celebrando que el encuentro entre mexicanos y japoneses empezó con un acto de generosidad y que a lo largo de nuestra historia común la amistad ha sido el sello. Ese sello lo lleva la Asociación en su mismo nombre: "Amigo-kai". Así, la celebración de 2009-2010 es también una celebración de la Asociación.

La semilla se sembró hace cuatro siglos. La generosidad del pueblo de Onjuku salvó la vida de la gran mayoría de los tripulantes del galeón San Francisco, que había naufragado por un tifón. Entre los sobrevivientes se encontraba el novohispano Rodrigo de Vivero, exGobernador de las Filipinas, que viajó durante diez meses por Japón y se entrevistó con el shogun Tokugawa Ieyasu.

Japón y México son países modernos y dinámicos, que al mismo tiempo cuentan con gran riqueza histórica. La amistad tiene bases sólidas en la historia común, pero no se queda ahí, se renueva y evoluciona, se orienta al futuro.

A lo largo de los años, la Asociación de Amigos de México en Japón "Amigo-kai" ha hecho valiosas contribuciones para difundir en Japón el conocimiento y aprecio por el México con tradiciones y el México moderno. Cada uno de sus miembros ha sido un promotor importante de lazos económicos, culturales, de cooperación y turísticos.

Con el apoyo de "Amigo-kai", seguiremos impulsando esos lazos en los años por venir. Seguiremos promoviendo la cooperación científica, la colaboración entre universidades, el intercambio de estudiantes, el conocimiento de las nuevas expresiones culturales de México, las vivencias directas de los ciudadanos japoneses a partir de sus viajes a México y --en un contexto económico de grandes retos-- una relación económica mutuamente beneficiosa, en la que seguiremos encontrando juntos oportunidades y soluciones.



Miguel Ruiz Cabañas
Embajador de México

**カバーニャス駐日メキシコ大使
新年ご挨拶**

2010年1月

「友好」は、メキシコと日本両国が2009年から新年にかけて祝う中心的テーマであります。寛大なる行動を伴った両国民の初めての出会いと日墨交流史の中で育まれた「友好」が証印となったことを祝福しております。その証印は、貴会自らの名称「アミーゴ会」にも存在しております。このように、2009年～2010年の諸祝賀行事は同様に貴会の祝賀でもあります。

その種は4世紀前に植えられました。400年前、寛大な御宿村民は台風によって難破した帆船「サン・フランシスコ号」のほとんどの乗組員の命を救助しました。生存者らの中には、フィリピンの総督であったヌエバ・エスパパーニャのロドリゴ・デ・ビベロが居りました。彼は10ヶ月にわたって日本各地を旅し、徳川家康公も接見しております。

日本とメキシコは近代かつダイナミックな国であり、同時に豊かな歴史をもっております。両国交流史の中で友好は確固たる基盤をもっておりますが、それに止まらず、友好は更新され、進展され、継続的に将来に向かっております。

長年にわたり、メキシコと日本の友人の会である「アミーゴ会」は、メキシコの伝統と近代メキシコに対する認識と評価を日本において普及するための重要なご貢献を果たしてこられました。貴会員の皆様は、日墨間の経済、文化、協力関係そして観光各分野の絆の貴重な推進者であります。

「アミーゴ会」のご協力により、それらの絆を推進し続けようではありませんか。今後とも、両国間の科学技術協力、大学間協力、学生交流などを推進しつつ、メキシコの新しい文化の認識を高め、メキシコ旅行による日本の皆様の直接体験を重ね、共に新たなビジネスチャンスなどを模索しつつ、双方に有益な経済関係等々を一緒に推進して行こうではありませんか。

(編集注：日本語訳はメキシコ大使館提供)

メキシコ日本アミーゴ会の第10回総会・懇親会は2009年11月17日夜、90名余の参加を得て盛況に開催されました。

総会では日墨交流400周年記念関連の諸行事、関西グループの活動、懇親ゴルフ大会などを担当幹事が報告しました。さらに上原会長からは新年度活動計画、事務局移転、幹事異動、会計報告がなされ、すべて承認を得ました。

また、総会後の懇親会には、ルイスカバーニャス大使夫妻とアリアガ公使も閉会まで参加され、出席者と親しくお話をされました。シェフが腕をふるったメキシコ料理が、マリアッチと観光ビデオとともに、日墨の交流と親善をいっそう深めてくれました。

幹事会メンバー

会長：上原尚剛

副会長：玉置修一郎、櫻田 武

【東京地区幹事(*新任)】

石井あけみ、市井勇人、伊藤 勇、大石正樹、河嶋正之*、
鴻巣勝明、酒田健治、下條宗男、瀬下昭直*、高山智博
中嶋 誠、南郷茂伸、日笠 徹、森 和重、渡辺道雄

【関西地区幹事】

荒木道介、市川啓一、伊藤宜則、大熊康雄、奥西保彦
小茂田一希、鹿内竣一、葭谷 修、渡邊正明

【退任】芹澤譲治、古家淳、棚橋加奈江のお三方には
これまでのご尽力に厚くお礼を申し上げます。

懇親ゴルフ大会の報告

幹事 鴻巣勝明

2009年最後のアミーゴ会行事であります“親睦忘年ゴルフ”が12月21日、無事に終わりましたのでご報告致します。



当日は素晴らしい晴天に恵まれ、風も少なく申し分の無いコンディションでした。名匠井上

誠一プロ設計になる川崎国際生田緑地ゴルフ場のコースは厳しく、余りアミーゴ扱いはしてくれなかった様です。アミーゴ会会員のお友達も加わった総勢21名の参加者中80台は何と4名と言う成績でした。

競技は新ペリア方式で行われましたが、優勝はアミーゴ会の山形純夫さん。成績は42/38、HCP 8.4、NET 71.6と言う立派なスコアでした。



会員メールアドレス登録のお願い

事務局

現在「郵送会員」でメールアドレスをお持ちの会員は、ぜひ貴メールアドレスを事務局に登録し「メール会員」に移行下さるようお願いいたします。

メール会員は様々なメキシコ関連イベント情報を『メルマガニュース』で随時、また『アミーゴ会だより』を年4回受信(当面郵送も継続)できます。

また、今後メールアドレスを変更される場合は、お手数でも事務局にご連絡下さるようお願いいたします。なお、現在のメルマガは宛先不明による未着連絡が発信者(事務局)に返信されません。今すぐ着信状況を再点検いただき、不都合あれば事務局に併せてご連絡下さい。

*事務局：info@mex-jpn-amigo.org (幹事会自動配信)

*TEL&FAX：0467-22-4225

*ホームページURL：<http://www.mex-jpn-amigo.org>



H22年度の活動計画(21年9月-22年8月)

①歴史文化講演会の開催、②リセオ(日墨学院)ホームステイへの協力、③懇親ゴルフ大会の開催(右欄記事を参照)、④アミーゴ会総会の開催(H22年10月を予定)、⑤フィエスタメヒカーナへの協賛、⑥関西地区活動(フィエスタメヒカーナ協賛等)、⑦メキシコ関連情報の提供(講演会/展示会/映画会/行事等をホームページやメルマガニュースを通じ随時提供)、⑧メキシコ関連ビジネス・広告の協力、⑨メキシコ進出企業へのコンサルティング、⑩メルマガニュースの随時配信と「アミーゴ会だより」(メルマガを改題)の年4回配信など。

メキシコ-日本アミーゴ会の事務局移転

JAMEX(日墨ホテル投資株)から事務局の退出を強く要請され、本会の設立経緯を踏まえて再考を促しましたが結局、移転を余儀なくされました。幸い南郷茂伸幹事より同氏が経営する会社内に事務局を設置して解決する旨ご提案があり、同氏のご厚意に甘えて10月1日に事務局を鎌倉市に移転しました。

事務局は今後、ウェブやメールなどの手段を中心に運営したく、この機会に郵送会員の方々のメール会員への移行を改めてお願いいたします。

なお移転に伴い、本会は日墨ホテル投資株およびホテル・ニッコーメキシコと無関係となり、ホームページの所用の記載を変更しました。

H21年度会計報告(20年9月-21年8月)

収入	金額	支出	金額
会費	588,000	郵送料	8,500
広告収入	75,000	メール便料	20,160
講演会収入	40,000	幹事会費用	96,390
親睦会残金	40,895	講演会費用	63,210
寄付	216,302	交通費	57,840
利息	407	HP関連費	33,335
		記念像記名	44,210
		雑費	3,570
収入計①	960,604	支出計②	327,215

今年度残高(①-②)
633,388 円
+前期繰越額
927,934 円
=次期繰越額
1,561,322 円

御宿と日本メキシコ交流 400 周年の記

幹事 鴻巣勝明

2009 年 11 月 21 日、御宿はこの日も晴れ渡った日でした。太平洋を一望に見渡す高台に在るこのメキシコ公園にブロンズ像“抱擁”はやっと落ち着いたのです。海の彼方メキシコから太平洋を渡って400年前の交流エピソード発祥の地、この御宿に着きました。

ドン・ロドリゴは“BUENAVENTURA”号でアカプルコに戻りましたが“抱擁”は急いで飛行機で飛んで来たのでした。待ち望んだ皇太子殿下ご臨席の400周年記念式典が9月26日に決定したのです。

2009年9月26日、この日御宿は素晴らしい快晴でこの日の為に一年中しまっておいたかのような、雲一つ無い汗ばむほどのお天気でした。朝10時に日本メキシコ交流400周年記念式典が始まりました。皇太子殿下をお迎えしての日本メキシコ交流400周年記念式典は同じこのメキシコ公園で行われました。式典は皇太子殿下のお祝いのお言葉を賜り滞りなく進み、愈々日本メキシコ交流400周年記念モニュメントの披露が始まりました。ここで400年にわたる日墨交流のシンボル、メキシコ政府寄贈のブロンズ像“抱擁”は初めて皆の前にその姿を見せたのです。



メキシコ公園にはすでに70年ほど前の1928年に日西墨三国交通発祥記念之碑、高さ17Mのオペリスクが建立されています。1978年

にメキシコのロペス大統領が訪日した際に御宿を訪問した時の映像（編集注：千葉県HPで「大統領がやって来た！～メキシコと御宿町・大多喜町との交流の記録(1978年)」が見られます。URLは次の通り：<http://www.pref.chiba.lg.jp/stream/mexico-video.html>）に出てくるあの白いオペリスクなのですが、それではなぜ日西墨の三国となっているのでしょうか。1609年、今から400年前に当時スペイン領であったメキシコからの船サン・フランシスコ号がマニラからアカプルコに戻る途中にこの御宿(岩和田尻沖)で暴風雨に遭い座礁しました。元フィリピン総督ドン・ロドリゴが率いる一行373名は、56名の生命は失いましたが残り317名はわずか300名と言う岩和田村民の手厚い保護を受け、翌年にはアカプルコに帰国しました。この帰国の際の船は家康が三浦按針に建造させた船ですが、次の年には答礼使ビスカイノが来日しています。これが日本(日)、スペイン(西)、メキシコ(墨)の三国史なのですが、今年は特に日墨の交流が強調されています。これはお聞きする所、ルイス・カバーニャス駐日メキシコ大使が400周年記念の発案、推進の立役者の様でした。両国とも財政困難なこの時期に多彩な記念事業が両国で多数開催された事は、まさに驚きと称賛に値するものでしょう。我々アミーゴ会も両国の実行委員会メンバーとして各種事業に協力・支援し、さらに4回シリーズの講演会、『ドン・ロドリゴ日本見聞録』と

『ビスカイノ金銀島探検報告』のCD版発刊、400年前のエピソードを紹介した『ドン・ロドリゴの幸運』の西語版のメキシコ国内配布等の独自の事業を行いました。

さてメキシコ公園での“日本メキシコ交流400周年記念式典”は主催が日本メキシコ交流400周年実行委員会・外務省・千葉県・大多喜町・御宿町でしたが、三国史のもう一国スペインも外れた訳ではありません。式典の後は海岸近くの“月の沙漠記念館”前広場特設会場に移動していきます。月の沙漠記念館が御宿にあるのはあの“月の沙漠”の歌の作詞者が一時期御宿で保養された事を記念して建てられたとの事ですが、直ぐ目の前は海岸で都心からこの地に移住される方も居る様です。メキシコ公園での式典は全くの限定出席者のみでしたが、今度は公園での参列者以外の地元の方々も参加されていましたが限定の様です。行事の名称は“サン・フランシスコ号漂着400周年記念祭”と変わり、今度はスペインがお祭りの主役でスペイン国王から御宿町にイサベル女王勲章が贈られました。御宿は人口が万人足らずですが、1978年にはアカプルコ市と姉妹都市を結びメキシコとはお付き合いの長い町です。しかし今回は3国間での行事ですので大変苦勞された事と想像されましたが、お祭りは楽しく賑やかに終わりました。

この海岸から見上げるメキシコ公園は静けさを取り戻し、ブロンズ像“抱擁”の二人も落ち着いた事でしょう。9月26日の式典では会場の特殊事情で本来の場所に台座は設置できませんでしたが、今日この晴れた11月21日にやっと公園の先端、太平洋を一望する場所に移り、改めて除幕式となったのです。ブロンズ像は抱き合う裸の姿ですが、400年前にこの地で起きた助け合いの精神はまさにこの像が象徴する様に人間が裸になった気持ちから生まれると我々に教えているのでしょう。ブロンズ像の台座には両国の友好に地道に活動された方々や記念碑建立に賛同された方々の記名プレートがはめ込まれましたが、アミーゴ会はこのプレートに利光松男初代会長、仲村聡初代事務局長のお二人を謹んで記名させて頂きました。(了)



(編集注：9月26日の記念式典の様子は千葉県インターネット放送局「ウイークリー千葉県-2009年10月3日放送分」で見られます。

URLは次の通り：

http://www.pref.chiba.lg.jp/stream/weekly_091003.html)

(編集注：『ドン・ロドリゴの幸運～交流の始まり～』(作：小倉 明、絵：山口まさよし、企画編集発行：千葉県総合企画部報道広報課)は08年9月に『ドン・ロドリゴ日本見聞録』など諸資料に基づき児童生徒向けに刊行された。日本語版は汐文社より一般販売されており、ウェブ書店などで購入(定価1300円)出来ます。)

千葉日報 09年9月27日

日墨交流400周年を祝う 人命救助の地、御宿で

御宿町で26日、「日本メキシコ交流400周年記念式典」と「サンフランシスコ号漂着400周年記念祭」が開かれた。人命救助の史実を基にした日本メキシコ交流の節目を祝い、皇太子さまが出席されたのをはじめ、森田健作知事、石田義広御宿町長、田嶋隆威大多喜町長、駐日メキシコ、スペイン両大使らが顔をそろえた。

日本とメキシコの交流契機となったのは、1609年9月、メキシコに向かう途中に御宿沖で座礁したスペイン船サン・フランシスコ号の乗員300人以上を当時の御宿の海女などが救助した出来事。乗員は時の大多喜城主から歓待も受けた。400周年に向け御宿町は、小中学校の道徳授業で史実を取り上げ人類愛の尊さを教えるなど機運を盛り上げてきた。



メキシコ記念塔前で行われた記念式典では、日本メキシコ交流400周年名誉総裁の皇太子さまが、御宿は両国関係の出発点と呼びかけられ、「日本とメキシコとの相互理解と友好が、今後ますます深まることを期待し、私のあいさつとします」と述べられた。

記念モニュメントを披露する駐日メキシコ合衆国大使
ルイス・カバーニャスら＝御宿町、26日10時16分

産経ニュース 09年9月27日

皇太子さま、日本メキシコ交流400周年 記念式典ご出席

皇太子さまは26日午前、千葉県御宿町で開催された日本メキシコ交流400周年記念式典に出席された。



式典には、駐日メキシコ大使や武正公一外務副大臣、森田健作千葉県知事も出席。「日本メキシコ交流400周年」名誉総裁を務める皇太子さまは「今日、わが国とメキシコとの交流は、政治、経済、文化など、多くの分野でますます緊密なものとなっていますが、400年にわたる交流の積み重ねに、今日の日本とメキシコの関係の礎があります」と述べられた。

最後に皇太子さまは、スペイン語で「式典に参加して私のあいさつをお聞きいただき、大変ありがとうございました」とあいさつされた。

↑記念式典にご臨席され、お言葉を述べる皇太子さま
＝26日午前、千葉県御宿町（矢島康弘撮影）

毎日新聞 09年9月27日

皇室：皇太子さま、日本とメキシコ交流400周年の 式典に出席－御宿 / 千葉

御宿沖で座礁したスペイン船の乗組員を地元民が助けたことに始まる日本とメキシコの交流400周年を記念して、御宿町で26日、「日本メキシコ交流400周年記念式典」と「サン・フランシスコ号漂着400周年記念祭」が開かれた。

サン・フランシスコ号は1609年9月30日、当時スペイン領だったメキシコへ戻る途中に座礁し、ドン・ロドリゴ総督と多数の乗組員が御宿・岩和田海岸に漂着した。地元住民の懸命の救助で乗組員317人の命が救われた。これを機に両国の交流が始まった。

交流式典は「日西墨三国交通発祥記念之碑」（1928年完成）の前であり、皇太子さまと両国政府関係者ら約160人が参列した。皇太子さまは「相互理解と友好が今後ますます深まることを期待します」とあいさつ。メキシコから贈呈された記念のモニュメントも披露された。

同町の「月の砂漠記念館」の前の広場であった記念祭には約450人が参列し、同町のコーラス愛好会の合唱などが行われた。

皇太子さまは前日の25日、大多喜町を訪問し、郷土芸能「上原神楽囃子」などを観覧した。【黒川晋史】

朝日新聞 09年9月27日

愛の彫刻、御宿町に寄贈 日墨交流400年

御宿町で26日、皇太子さまが出席して日本メキシコ交流400周年記念式典が行われた。メキシコ政府から記念品として同町に贈呈された世界的な彫刻家ラファエル・ゲレロ氏（1934～2005）の作品「抱擁」が披露された。

ゲレロ氏はメキシコ彫刻界の巨匠として知られ、1968年のメキシコ五輪ではメダルや聖火台などを制作した。式典にはゲレロ氏の妻猪股せい子さん（64）が参加。「夫は御宿で日本人が多く遭難者を助けたことを知っていた。人類愛を表現した作品が御宿に置かれるのは本人も満足だろう」と話した。

猪股さんによると、「抱擁」は成熟した男女の精神的な愛を表現しているという。男は上る太陽、女は沈む月を表し、相互理解、人類愛が表現されている。1609年に御宿沖でメキシコに向かっていたスペイン船「サン・フランシスコ号」が遭難し、漂着した乗組員を海女が自らの体温で温めて救ったという史実が友好の歴史のスタートとなっており、この作品は400周年を飾るのにふさわしい作品とされる。作品は、式典が開かれた日西墨三国交通発祥記念之碑から海寄りの所に設置される。猪股さんは「海を隔ててメキシコがあり、またとない場所に置かれた」と感動した様子だった。

式典には、78年に御宿町を訪問して歓迎を受けたメキシコのホセ・ロペス元大統領の長男ホセ・ラモン・ロペス氏（55）も出席した。「海女たちの救助は究極の人類愛だ。すべての人間がこの歴史を忘れてはいけない」と語った。

続いて漂着400周年記念祭が行われ、スペイン政府から権威あるイサベル女王勲章が御宿町に贈られた。スペインとの友好、協力関係に寄与した人たちに贈られており、日本の団体では初の受賞という。御宿中3年の石井康太君（15）と平賀栄里さん（15）が壇上に立ち、「祖先の偉業を後世に語り継ぐ。スペイン、メキシコと文化交流を推進する。世界平和に尽くす」との誓いのことばを述べた。

また、日本、スペイン、メキシコの国歌を御宿小学校校金管部が演奏した。トランペットを担当した同小6年の田村優衣さん（12）と小林良美さん（12）は終了後に皇太子さまから「いい演奏でしたね」と声をかけられ、「うれしかった」と話していた。

今年8月から勝浦ロータリークラブの青少年交換プログラムの一環として受け入れているメキシコからの留学生アンヘル・マヌエル・オラバライア君（17）も記念祭に参加して、メキシコの人々と楽しいひとときを過ごした。

（高木和男）



メキシコ歴史文化講演会の報告

「17世紀のメキシコ/スペインと日本の交流」

幹事 森 和重

メキシコー日本アミーゴ会は、2009年の日本メキシコ交流400周年記念行事の一つとして、9月から11月にかけて4回シリーズの「17世紀のメキシコ/スペインと日本との交流」に関する講演会を、駐日メキシコ大使館・たばこと塩の博物館の後援を得て開催した。

日本とメキシコ（当時スペイン副王領ノバ・エスパニーヤ）の交流は、1609年9月、前フィリピン臨時総督ロドリゴ・デ・ビベーロが帰任のため乗船していたガレオン船“サン・フランシスコ号”が房総沖で台風に遭遇し、上総国岩和田（現御宿町）に漂着したが、乗船者の内317名を地元民が救助した時に始まったと言える。翌年、ビベーロの帰国に同行して日本人23名が最初に太平洋を渡るとか、1611年には返礼の使者ビスカイノが来日、1613年には伊達政宗により支倉遣欧使節団がメキシコ経由で派遣されるなど関係が深まっていた。

しかし、並行して日本では徳川幕府がキリスト教を禁じ、1638年には鎖国令を発し約250年の鎖国時代に入ったため交流も途絶えてしまった。

この様な17世紀の日本とメキシコの交流関係は意外と知られておらず、その歴史を改めて見直すことにより、日本とメキシコの間をより深く理解する一助として、この分野の日本有数の4名の権威による講演会を企画した。お陰様で多数の会員・一般の方にも参加して戴き盛会であった。

第1回は榊玲子氏（たばこと塩の博物館学芸員）には「マニラーアカプルコのガレオン貿易」のテーマでお話願った。1492年に新大陸発見後、スペインが太平洋を西から東へ横断する航路発見のため失敗を繰り返しながら、1543年にフィリピン到達しマニラを占有したが、日本近海まで北上する安全な帰路を見付けるまで更に20年を要した。1565年のマニラ＝アカプルコ・ルート（マニラ）の成立により、マニラを拠点として250年に亘るアジアと新大陸との貿易の中心となった「ガレオン貿易」の歴史的役割について解説してもらった。

第2回は大垣貴志郎教授（京都外大・京都ラテンアメリカ研究所所長）が「環太平洋の夜明けー日西

交流史の年譜の固定観念ー」と題し、大航海時代の日本とノバ・エスパニーヤとの交渉史について語られた。さらに、歴史資料の解釈には通説や固定観念にとらわれず複眼的で新たな視野に立つておこなう可きとの意見が述べられた。

第3回の五野井隆史教授（聖トマス大学）には「支倉慶長遣欧使節団とメキシコの関係」の題で、伊達政宗は何故支倉常長をヨーロッパに派遣したのか、遣欧使節派遣の経緯とその目的、メキシコ・スペイン・ローマ滞在の経過や結果について資料を基に解説戴いた。また支倉の帰国に際してメキシコ政府が彼等の携帯品や土産品への課税をいかに処理したかなどについても言及された。

第4回は、林屋永吉元スペイン大使が「17世紀メキシコに残った日本人たち」のテーマで、先ず御朱印船時代からの日本人の東南アジアへの進出と活躍について紹介された。17世紀にはさらに新大陸まで渡った日本人たちがいた史実資料が残っているが、そのルートとして幾つかあったと推定された。マニラのガレオン船経由、1610年のビベーロの帰国時に同行した23名の日本人の中の残留者（3名残った記録あり）、1613年の支倉遣欧使節団の同行者190名の内の残留者、日本に寄港したガレオン船で直接渡った人たちなど数ルートが推定されるが記録はない。一方、グアダハラでは17世紀に4名の日本人が存在した事実を示す古文書が発見されている。その一人は氏名から伊達藩出身らしいと推測し、大使自ら宮城県河北町まで訪れ調べた結果その一族らしい家族が残っていると、新たな資料や状況証拠をもとに、メキシコに残った日本人の数奇な運命について謎解きをされた。

カルデロン大統領の国連大学での講演会

カルデロン大統領は公式実務訪問の機会に、気候変動に対峙する世界合意の展望について講演されます。

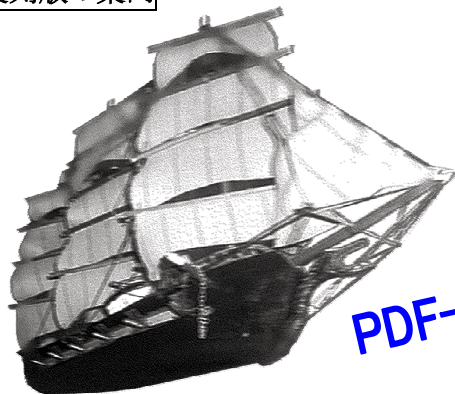
日時：2010年2月2日（火）10:15～11:15

会場：国際連合大学 3階 ウ・タント国際会議場

詳細 URL：http://www.unu.edu/uthant_lectures/

（注）出席申込は上記より1月29日（金）までに。

復刻版の案内



PDF-CD版

『日本メキシコ交流400年記念事業』



村上直次郎 訳・註 ドンロドリゴの日本見聞録 (150ページ) ビスカイノ金銀島探険報告 (190ページ)

異国叢書 駿南社 1929年4月(非売品)

はじめり 日本とメキシコ(当時ヌエバ・エスパーニャ Nueva España)の友好関係は1609年9月末フィリピン総督ドン・ロドリゴ・デ・ビベロ・イ・ベラスコ Don Rodrigo de Vivero y Velasco が帰任途中に搭乗船サン・フランシスコ San Francisco 号が房総沖で遭難し、これを地元村(現御宿町)挙げて救助した。これがキッカケでヌエバ エスパーニャ政府の高官ロドリゴと日本の幕府将軍徳川家康が初めて友好の接触を持ったわけである。

返礼特使 ロドリゴがアカプルコに帰着した翌年、来邦した返礼大使セバスティアン・ビスカイノ Sebastian Viscaino が書いた『金銀島探険報告』も裏面では、密命を承けて行った日本各地港湾測量と金銀鉱山調査、家康との交渉などの本人報告であり、史実研究書として興味深く貴重なものである。この報告を通して彼らが見た当時の日本の街並み、生活が伺えてこれも又興味深い。

こうして日本メキシコ交流の歴史は繋がっていく。ロドリゴ(1609)からビスカイノ(1611)、そして伊達政宗・支倉常長らの遣欧使節(1614)・・・その悲劇の帰国へ。・・・さらに大きく跳んでメキシコの対スペイン独立戦争勃発(1810=来年200周年)。

また時代が下って、ディアス・コバルビアス Diaz Cobarrubias が横浜野毛山で行った“金星による日食の世界同時観測”の折(1874)の明治政府との交流とその報告書。それがきっかけとなって、わが国に

とって初めての平等条約“日本メキシコ修好通商航海条約”の締結(1888)。・・・そして今日(2009)まで一貫した友好関係へと繋がる・・・更なる友好関係の発展に、われわれも微力を尽くしたい。

CD版出版 しかし事件の発生地日本側での詳細な記録も殆んど残されていない。地元での口伝がある程度で、詳細な史実記録はロドリゴのこの報告書(大英博物館所蔵原本)のほか殆んど知られていない。日本人として本文に目し、初めてその翻訳に手を染めたのは明治34年、村上直次郎文学博士である(本書序文を参照)。この研究が上梓されたのは1929年(昭和4年)の駿南社・異国叢書[非売品]であり、本版は、その後の戦災で消滅した中、生き残ったものから著者継承者の許諾によって、PDFコピー出版が実現できた。

1929年上梓の本書を紹介するのは、①原本がこの事件の唯一書き残された記録であること、②日本語翻訳の嚆矢であること、③訳者研究の註内容、④ロドリゴ搭乗の船長ファン・セビーコ Juan Cevico の報告書(ロドリゴの意見・感想と異なり、正反対ですらある)を附録第4号に載せている、など史実・研究書として価値の高いものと考えたからです。

この400年記念事業の一環として意義ある史実を一人でも多くの関心者に読んで頂きたいと頒布・PRする次第です。

幹事 櫻田 武

PDF-CD版を頒布中 一枚¥1200(国内包・送料¥200含む)

申込み先: info@mex-jpn-amigo.org 又は Fax0467-23-7248 (貴名、〒住所、Tel/Fax 数量)

代金振込先(郵便局口座): 00160-6-389197 メキシコホンアミーゴ会・貴名を忘れずに!!

(頒布価格: 複数一括時の包・送料および国外の場合は申し込み先にお問合わせください)

(発送: 代金振込み確認後郵送します。)

メキシコ-日本アミーゴ会

メキシコ経済 & 政治トピックス

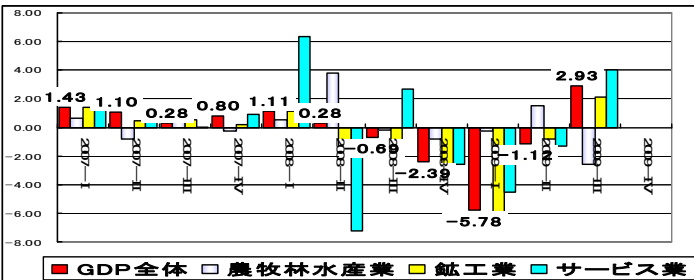
幹事 河嶋正之

マクロ経済：09年第3四半期に底打ち反転へ

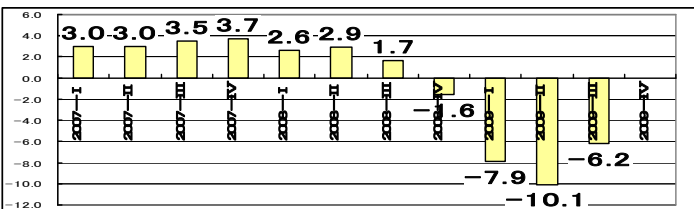
メキシコ経済は2009年にはマイナス7%前後の成長に落ち込み、第二次世界大戦後最悪*のマイナス成長を記録しよう。すなわち、メキシコ政府(大蔵省)は09年の経済成長率をマイナス6.8%と見込んでいる。しかし、10年には米国経済の復調も期待され、同省はプラス3%の経済成長を見通している。

*メキシコ経済は1995年(テキーラショック)にマイナス6.2%、1932年(世界恐慌)にマイナス14.8%を記録した。

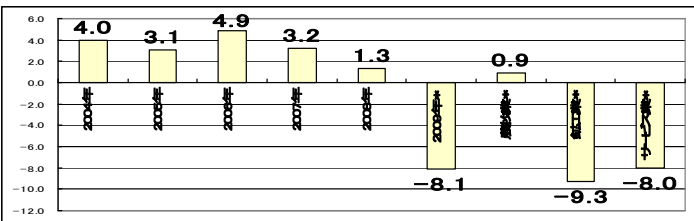
メキシコ経済の四半期別実質 GDP 伸び率を季調済前期比で見ると、09年第3四半期には全体では2.93% (年率換算12.25%)と08年第3四半期来のプラス成長に転じた。農林水産業はマイナス2.56%だったが、



GDPの3割を占める鉱工業がプラス2.14%、6割のサービス業が同4.00%となった。ただし前年同期比では第3四半期のGDPは全体でマイナス6.2%、鉱工業は同6.6%、サービス業は同6.5%と依然低迷しているが、第2四半期のマイナス10.1%を底に反転した。

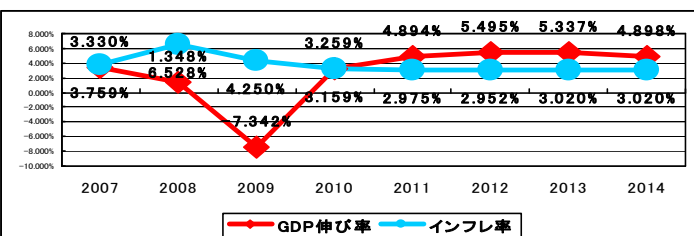


他方、09年1~9月のGDP伸び率は前年同期比マイナス8.1%となった。これは農牧業が0.9%のプラス成長だったが、鉱工業がマイナス9.3%、サービス業が同8.0%と低迷したことによる。

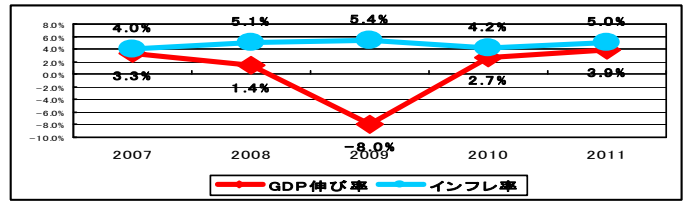


(以上の出所は国立統計地理情報院 INEGI の09年11月20日発表データ)

なお、メキシコ経済の中期的な見通しに関して、IMFは09年10月の経済展望で09年はマイナス7.34%を見込むが、10年以降は3~5%の回復軌道に乗るとし



ている。同じくOECDは09年11月19日付けで、09年GDPはマイナス8%となろうが、翌年からプラス成長に転じると予測している。



また、メキシコの外貨建て長期債の格付けが09年11月の10年予算成立後に引下げられたが、市場では不透明感の払拭と好感され景気回復期待も加わって株価指数IPCは1月8日に史上最高値を更新した。

政治制度改革：大統領、憲法改正10項目を提案

カルデロン大統領は12月15日、根源的な国家改革の加速に必要な政治制度改革を国民に提示した。

十大提案は、現行禁止の連続再選を①首長と②議員(連邦・地方)に認め、③国会議席を削減(上院128→96、下院500→400)し、④助成対象の政党要件を上げる。また、新しく⑤市民の法案提出制、⑥無所属立候補制、⑦大統領選挙の決戦投票制、⑧最高裁の司法改革法案提出制、⑨優先審議法案制と改憲国民投票制を導入し、⑩大統領の歳出予算法拒否権を明文化するもの。

提案の背景には、国会の多党化(少数与党)が深化し論戦が党利党略優先に傾きがちな現状を打破する意図があるが、提案内容はいずれも憲法改正が必要であり、その成否は予断を許さない。

メキシコ関連イベントのお知らせ

展示会：ガレオン船が運んだ友好の夢

会期：2010年1月23日(土)~2月28日(日)

会場：たばこと塩の博物館(渋谷区)

内容：①日本とメキシコの交流の歴史

②アカプルコとマニラ間のガレオン貿易

URL:http://www.jti.co.jp/Culture/museum/tokubetu/1001_event/index.html (←講演会など併載事業案内あり)

展示会：蘇るマヤ・アステカの色~白田良子の世界~

会期：2010年2月23日(火)まで開催中

会場：月の沙漠記念館(御宿町)

内容：メキシコ遺跡修復専門家・古代染色研究家が古のモチーフに託して蘇らせた色と染と織

URL:<http://www.town.onjuku.chiba.jp/>

=編集後記=

「アミーゴ会メルマガ」を「アミーゴ会だより」と改題した創刊号をお届けします。会員間の交流と親睦を深める媒体として、会員諸氏から寄せられた情報や投稿を主体に年4回の発行を目指します。ご意見ともども玉稿をどしどし幹事会編集部へ送信ください。なお、本号使用の写真はそれぞれ会員(河嶋正之、鴻巣勝明、横山寛美)の撮影です。[か]